

「裸眼視力は術前 LogMAR1.27(小数視力0.05)が術後1日 - 0.03(1.07)、1ヵ月 - 0.08(1.20)と改善し、5年で - 0.03(1.07)で若干の裸眼視力の低下があった。。自覚屈折値は、屈折前 -6.40D が術後1週0.07D とほぼ正視に改善し、1年以降若干の屈折の戻りがあった。矯正視力は、2段階以上の矯正視力の低下が7人10眼(1.3%)に認められたが、白内障、ドライアイ、加齢黄斑変性症、不正乱視等が原因であった」

.....

日本国内での長期経過観察報告は、眼科専門雑誌「Ophthalmology」の2008年5月号に掲載されています。南青山アイクリニック東京で適応と判断され、レーシックを受け、5年まで定期検査に来院した402人779眼(年齢 34.6 ± 8.3 歳、術前屈折 -6.40 ± 2.58 D、手術期間1997年12月～2002年3月)の経過観察の報告です。(手術後の検査は1日、1週、3ヵ月、6ヵ月、1年、2年、3年、4年、5年に行なわれました)

その結果、術後5年間の視力は安定していることが報告されました。また、

「レーシックによる角膜切除により眼圧は平均4.0mmHg 低値を示し角膜厚はレーシックにより平均 $76.9 \mu\text{m}$ 薄くなりしたが、5年間安定していた。。角膜内皮細胞(1平方mm 当りの細胞数)は術前 2689.0 ± 232.9 個から術後5年 2658.0 ± 183.1 個となり、1.2%の減少を示したが、加齢による減少の範囲内であった」

さらに、合併症に関しては、

「視力に影響を及ぼすような、不可逆的で重篤な合併症は認められなかった」

と報告しています。これらの結果のまとめとして、

「これらのデータは、レーシックが安全で有効であることを示しており、適応基準、除外基準を厳格に遵守すること、術後合併症が起きた場合にはタイムリーに対処できるようにすることが重要である」

としています。